

関係者各位

「大学生の生活と意識に関する調査」結果概要（速報版）

2021年3月27日

青少年研究会 代 表 浅野智彦（東京学芸大学教授）
事務局 辻 泉（中央大学教授）

前略

本研究会では、2020年10～11月に、全国の国公立および私立大学19校の社会学系授業の受講者の皆さんにご協力いただき、「大学生の生活と意識に関する調査」を実施いたしました。おかげさまで、1000名を超える受講生の皆さんにご協力いただき、無事調査を行うことができました。

その内容は、新型コロナウイルス感染症の拡大についての意識や、音楽に代表されるコンテンツ文化や各種メディアの利用実態、友人関係、家族・恋愛関係の実態、さらには自己や社会についての意識など実に多岐に及びます。

以下では、特に重要な結果につきまして、概要をまとめております。次ページ以降に掲載しておりますので、ぜひご一読下さい。

この概要やその他の分析結果などにつきまして、ご不明な点、お気づきの点などございましたら、以下のお問い合わせ先までお知らせいただけますと幸いです。（なお今回の結果は速報版のため、今度若干の修正が加わる可能性もありますことを、あらかじめお断りしておきます。）

草々

●お問い合わせ先

〒192 - 0393 東京都八王子市東中野7 4 2 - 1

中央大学文学部 社会情報学専攻 教授 辻 泉

電話：042-674-3731（共同研究室） ファックス：042-674-3793

E-mail：tsuji@tamacc.chuo-u.ac.jp

1. 調査全体の概要

- ・調査名称：「大学生の生活と意識に関する調査」
- ・調査主体：青少年研究会 (<http://jysg.jp/>)
- ・調査対象：1061名（全国の国公立および私立大学19校の社会学系授業の受講者）
- ・実施期間：2020年9月24日～11月6日
- ・配布回収方法：オンラインアンケートフォームを用いた集合式調査（一部質問紙配布）

調査全体の概要は上記の通りです。回答者数は全部で1061名であり、全国の国公立および私立大学19校の社会学系授業の受講者の皆さんにご協力いただきました。このうち、国公立大学が7校、私立大学が12校です。

性別の内訳をみると、男性が35.2%に対して女性が63.2%とやや多く、学年別では2年生45.3%、3年生23.1%、1年生21.4%の順に多く、どちらかといえば、大学生の中でもやや下の学年の傾向を反映した結果であることに留意する必要があるといえます。また留学生は1.5%でした（以降も含め、無回答は除いて表示）。なお表記はしていませんが、居住形態では、親と同居が68.3%と多く、非同居が28.4%でした。

あなたの性別を選んでください。（S A）		回答数	%
全体		1052	100.0
1	男	370	35.2
2	女	665	63.2
3	その他	6	0.6
4	答えない	11	1.0
あなたの学年は、次のうちどれにあてはまりますか。（S A）		回答数	%
全体		1053	100.0
1	1年生	225	21.4
2	2年生	477	45.3
3	3年生	243	23.1
4	4年生	105	10.0
5	それ以上	3	0.3
あなたは留学生ですか。（S A）		回答数	%
全体		1054	100.0
1	はい	16	1.5
2	いいえ	1038	98.5

表1. 回答者の基本属性（抜粋）

2. 新型コロナウイルス感染症拡大に関する意識

新型コロナウイルス感染症拡大の状況をふまえて、あなたには、以下の a) ~ f) のようなことがどの程度あてはまりますか。それぞれについて1つずつ選んでください。

／ a) 日本政府の新型コロナウイルス感染症対策には満足している		回答数	%
全体		1059	100.0
1	あてはまる	61	5.8
2	ややあてはまる	454	42.9
3	あまりあてはまらない	455	43.0
4	あてはまらない	89	8.4

／ b) 友人や知人との人間関係が疎遠になってきている		回答数	%
全体		1060	100.0
1	あてはまる	252	23.8
2	ややあてはまる	415	39.2
3	あまりあてはまらない	269	25.4
4	あてはまらない	124	11.7

／ d) もし自分がコロナウイルスに感染した場合、世間からの非難が怖い		回答数	%
全体		1059	100.0
1	あてはまる	457	43.2
2	ややあてはまる	364	34.4
3	あまりあてはまらない	151	14.3
4	あてはまらない	87	8.2

／ b) 「不要不急」ではない外出をしている人は批判されても仕方がない		回答数	%
全体		1061	100.0
1	あてはまる	159	15.0
2	ややあてはまる	450	42.4
3	あまりあてはまらない	360	33.9
4	あてはまらない	92	8.7

／ d) コロナウイルスの流行が終息しても、大学の授業はオンライン形式を積極的に活用していくべきだ		回答数	%
全体		1060	100.0
1	あてはまる	214	20.2
2	ややあてはまる	372	35.1
3	あまりあてはまらない	313	29.5
4	あてはまらない	161	15.2

表2. 新型コロナウイルス感染症拡大に対する意識 (抜粋)

現在でも、新型コロナウイルス感染症の拡大状況は油断を許しません。これに関係する大学生の皆さんの意識のうち、代表的なものを抜粋したのが表2です(Q2とQ3)。

「日本政府の新型コロナウイルス感染症対策には満足している」(Q 2(a)) という質問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、あわせて 515 名で 48.7%と、過半数には達しませんでした。同様に「友人や知人との人間関係が疎遠になってきている」(Q 2(b)) が 667 名で 63.0%、「もし自分がコロナウィルスに感染した場合、世間からの批判が怖い」(Q 2(d)) は 821 名で 77.6%と多く、「「不要不急」ではない外出をしている人は批判されても仕方がない」(Q 3(b)) も 609 名で 57.4%と過半数を超え、大きな不安を抱えている様子が伝わってきました。

また来年度以降の見通しに関連して、「コロナウィルスの流行が終息しても、大学の授業はオンライン形式を積極的に活用していくべきだ」(Q 3(d)) という質問に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、あわせて 586 名で 55.3%と、オンライン授業も賛否が分かれている様子が伺えました。

3. コンテンツ文化享受に関する実態

Q8	あなたは新しい音楽をどこから知りますか。あてはまるものをすべて選んでください。(MA)		
		回答数	%
	全体		1059 100.0
	1	音楽雑誌	48 4.5
	2	ラジオ	160 15.1
	3	テレビの音楽番組	527 49.8
	4	テレビのタイアップ(CMや主題歌など)	479 45.2
	5	インターネット	831 78.5
	6	CDショップ(店頭)	88 8.3
	7	カラオケ	203 19.2
	8	ライブ(フェスや音楽イベントを含む)	142 13.4
	9	その他	151 14.3
	10	新しい音楽を知ることがない	11 1.0
Q9	あなたが音楽を知る際に、重んじる情報はどれですか。重んじるものをすべて選んでください。(MA)		
		回答数	%
	全体		1061 100.0
	1	好きなアーティストのおすすめ	524 49.4
	2	好きな有名人(アーティスト以外)のおすすめ	210 19.8
	3	専門家(ライターやラジオパーソナリティ)のおすすめ	60 5.7
	4	自分と仲が良い人(友だちなど)のおすすめ	491 46.3
	5	アプリなどで示される「あなたへのおすすめ」	321 30.3
	6	口コミで「バズって」いること(Twitterのトレンドなど)	295 27.8
	7	ヒットチャートで上位にあること(オリコンチャートなど)	297 28.0
	8	お洒落なお店(カフェや洋服屋など)で流れていること	91 8.6
	9	重んじる情報はない	213 20.1

表3. コンテンツ文化享受の実態

本調査では、大学生の日常生活の中で、大きな割合を占めるであろう事柄を、いくつかテーマとして取り上げました。一つ目は、コンテンツ文化の享受です。表3では特に音楽に注目してその情報源や重視する情報の結果を示しています（Q8とQ9）。

「あなたは新しい音楽をどこから知りますか（複数回答形式、以下、MAと記す）」（Q8）という質問については、圧倒的に多かったのが「インターネット」（831名 78.5%）であり、「テレビの音楽番組」（527名 49.8%）「テレビのタイアップ（CMや主題歌など）」（479名 45.2%）などがそれに次ぎますが、差が大きく開くこととなりました。

さらに「あなたが音楽を知る際に、重んじる情報はどれですか（MA）」（Q9）という質問については、「好きなアーティストのおすすめ」（524名 49.4%）「自分と仲が良い人（友達らなど）のおすすめ」（491名 46.3%）の順となり、広い意味での「クチコミ」の情報を重視している傾向が伺えました。この点は、Q8でテレビよりもインターネットが大きな割合を占めていたこととも関連しているかもしれません。

4. メディア利用に関する実態

次に、そうしたコンテンツ文化の享受とも関連する、メディア利用に関する実態を見ていきましょう。

Q19 あなたは、日ごろスマートフォンを使って以下のことをしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（MA、ランキング形式）			
		回答数	%
	全体	1059	100.0
9	動画の視聴（オンライン授業を除く）	915	86.4
11	音楽の聴取	901	85.1
8	検索エンジンでの情報検索	774	73.1
1	音声のみの通話	764	72.1
5	SNSへの投稿	738	69.7
4	メッセージの送受信（LINE 以外のSNSや、SMSなど）	625	59.0
7	ニュースの閲覧	624	58.9
10	ゲーム	564	53.3
14	（自撮り以外の）写真撮影	527	49.8
3	Eメールの送受信	523	49.4
12	雑誌・マンガ・書籍の閲覧	421	39.8
6	オンライン授業の視聴	395	37.3
2	ビデオ通話	316	29.8
15	アプリによる写真の加工	307	29.0
13	自撮り	219	20.7
16	その他	36	3.4
17	スマートフォンを使っていない	1	0.1

表4. 日ごろスマートフォンを使ってしていること

表で示してはいませんが、大学生たちの間での主役のメディアは、想像された通りに、テレビではなくスマートフォンであることが伺えました。一日あたりの利用時間で比べてみても、テレビは「1時間未満」という回答が 327 名 30.9%と最も多かったのに対し、スマートフォンは「5時間以上6時間未満」が 177 名 16.7%と最も多く、さらに、おおむねその前後に回答も集まっています、大きな差がうかがえました。

では、そうしたスマートフォンを使って、日ごろ何をしているのか、その結果をまとめたのが表4です。多いものからランキング形式で並べ替えています (Q19)。

ここからは、大きく分けて二つのパターンの利用実態が見えてきそうです。一つには、特に割合の多い項目として「動画の視聴」(915 名 86.4%)「音楽の聴取」(901 名 85.1%)が挙げられており、また少し下がって、「ニュースの閲覧」(624 名 58.9%)といった項目もあるように、コンテンツ文化を享受するためのツールとしての実態です。スマートフォンの機能が高度化するのに伴って、この側面は近年特に増してきたように思われます。

もう一つには、スマートフォンがもともとは電話機というパーソナルメディアであることから想像されるように、パーソナルコミュニケーションのツールとしての実態も見えてきます。「音声のみの通話」(764 名 72.1%)「SNSへの投稿」(738 名 69.7%)「メッセージの送受信」(625 名 59.0%)といった項目も割合が大きいですし、またLINEについて別に項目を設けて尋ねましたが、その利用者は 1053 名で 99.8%と圧倒的な割合を占めていました。

ではさらに、こうしたパーソナルメディアの中でも、SNS の利用実態をさらに掘り下げてみたいと思います。表5にあるように、LINE を除いて、主要な SNS の利用実態を見てみると、Twitter (897 名 84.8%) と Instagram (894 名 84.5%) の二つが特によく利用されていることがわかります (Q23)。

Q23. あなたは、日ごろスマートフォンを使って以下の SNS を利用していますか (LINE を含みません)。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。また、その中で、最も利用しているものはどの SNS ですか。 / 利用している SNS (MA)				
			回答数	%
全体			1058	100.0
1	Twitter		897	84.8
2	Facebook		185	17.5
3	Instagram		894	84.5
4	TikTok		287	27.1
5	その他		23	2.2
6	以上の SNS は利用していない		56	5.3

表5. 日ごろスマートフォン経由で利用している SNS (LINE を除く)

さらに表6にあるように、こうした SNS 利用で経験していることを尋ねたところ (Q24)、「アカウントに鍵をかける」(891 名 84.6%)「複数のアカウントを使い分ける」(792 名

75.2%)などは特に割合が高く、さらに「いわゆる「インスタ映え」を意識した写真を投稿したことがある」(541名 51.4%)「自分が何かする時、SNS上での反応を気にすることがある」(504名 47.9%)といったように、他者の目を意識した経験もそれに次いで多い結果となっていました。

Q24 あなたは、SNS（LINEを含みません）の利用に関して、次のような経験がありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（MA）			
		回答数	%
全体		1053	100.0
1	アカウントに鍵をかける	891	84.6
2	複数のアカウントを使い分ける	792	75.2
3	いわゆる「インスタ映え」を意識した写真を投稿したことがある	541	51.4
4	恋人とのデートに関する投稿をしたことがある	225	21.4
5	「匂わせ」（間接的に恋人の存在をアピールすること）を投稿したことがある	168	16.0
6	自分が何かする時、SNS上での反応を気にすることがある	504	47.9
7	「盛り」（自分の顔をより良く見せること）を意識した写真を投稿したことがある	320	30.4
8	昔知り合った友人の連絡先をFacebookなどのSNSを使用して探したことがある	265	25.2
9	SNS上で人から嫌な思いをさせられたことがある	154	14.6
10	この中にあてはまるものはない	72	6.8

表6. SNS（LINEを除く）利用で経験したこと

5. 友人関係に関する実態

続いて、対人関係に関する意識や行動の中でも、友人関係について見ていきましょう。表7にあるように、「現在の友人関係に満足している」という項目について（Q25(a)）、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、あわせて913名で86.3%に達し、友人関係の満足度がかなり高い様子うかがえました。表では示していませんが、友人を親しさの度合いに応じて3段階に分けてその人数を尋ねても、それぞれの平均人数は「親友」が4.52人、「仲の良い友だち」が18.72人、「知り合い程度の友だち」が74.96人と、多い様子うかがえました。

あなたには、以下のa)～i)のことがどの程度あてはまりますか。それぞれについて1つずつ選んでください。/ a) 現在の友人関係に満足している (SA)

		回答数	%
全体		1058	100.0
1	あてはまる	464	43.9
2	ややあてはまる	449	42.4
3	あまりあてはまらない	116	11.0
4	あてはまらない	29	2.7

表7. 友人関係の満足度

Q25	あなたには、以下の a) ~ i) のことがどの程度あてはまりますか。それぞれについて1つずつ選んでください。/ g) 友だちの数は多いほうがいい (S A)		
		回答数	%
	全体	1057	100.0
1	あてはまる	145	13.7
2	ややあてはまる	243	23.0
3	あまりあてはまらない	434	41.1
4	あてはまらない	235	22.2
	h) 遊ぶ内容によって一緒に遊ぶ友だちを使い分けている (S A)		
		回答数	%
	全体	1058	100.0
1	あてはまる	334	31.6
2	ややあてはまる	469	44.3
3	あまりあてはまらない	187	17.7
4	あてはまらない	68	6.4
	i) 周囲の人たちから「イタいやつ」と思われないようにしている (S A)		
		回答数	%
	全体	1058	100.0
1	あてはまる	261	24.7
2	ややあてはまる	464	43.9
3	あまりあてはまらない	236	22.3
4	あてはまらない	97	9.2

表8. 友人関係に関する意識 (抜粋)

ですが、もしかするとこうした友人の人数も、高止まりしつつあるのかもしれませんが。表8にあるように、こうした実態とも関連して、「友だちの数は多いほうがいい」(Q25(g))という質問について、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、あわせて388名36.7%とおよそ三分の一程度にとどまり、多くの大学生が、友人数は多いほど良いと考えているわけではないことがわかりました。

その背景として、人数の多い友人関係に対する工夫や苦勞といった実態がありそうです。続けて表8を見ると、「遊ぶ内容によって一緒に遊び友だちを使い分けている」(Q25(h))という質問に、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、あわせて803名75.9%にも達し、およそ四分の三がそのように友人関係を選択的に扱っていることがわかりますし、「周囲の人たちから「イタいやつ」と思われないようにしている」(Q25(i))という質問については、同様にあわせて725名68.6%が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、いわゆる「空気を読む」工夫をしながら、どうにかしてこうした友人関係の中で暮らしている様子がうかがえます。

6. 恋愛・家族関係に関する実態

続いて、対人関係の中でも、恋愛・家族関係に関する実態を見ていきましょう。表9にあるように、これまでに恋愛交際の経験がある人は、670名 64.3%と過半数を超えています（Q28）。ただし、さらにその中で、現在も恋愛交際中という人は、253名 38.0%と多くはありませんが、相手がいる場合に、その関係に「満足」「やや満足」と答えた人は、あわせて235名 92.9%とかなり高い割合に達していることがわかります（Q30）。

Q28 あなたは、これまでに恋愛交際したことがありますか。次の中から1つ選んでください。（S A）			
		回答数	%
全体		1042	100.0
1	ある	670	64.3
2	ない	372	35.7

Q30 あなたは、現在恋愛交際している相手がありますか。（S A）			
		回答数	%
全体		666	100.0
1	いる	253	38.0
2	いない	413	62.0

Q30 「いる」と答えた方だけにお聞きます。あなたは現在の恋愛交際相手との関係にどのくらい満足していますか。（S A）			
		回答数	%
全体		253	100.0
1	満足	158	62.5
2	やや満足	77	30.4
3	やや不満	15	5.9
4	不満	3	1.2

表9. 恋愛交際経験の有無（過去／現在）と、現在の相手への満足度

Q31 あなたが恋愛交際相手に求めることで重要視するポイントは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。（MA、ランキング形式）			
		回答数	%
全体		1048	100.0
6	一緒にいるときの安心感	915	87.3
9	気づかいができる	681	65.0
12	自分の心配ごとや悩みを聞いてくれる	653	62.3
8	趣味に理解がある	643	61.4
3	おもしろさ	591	56.4
4	容姿	583	55.6
11	自分の能力・努力を認めてくれる	491	46.9
2	経済力	208	19.8
5	非日常感（ときめき）	205	19.6
7	家事ができる	178	17.0
1	学歴	160	15.3
10	自分の家族に気に入られる	143	13.6
13	この中にあてはまるものはない	18	1.7

表10. 恋愛交際相手に求めること

表 10 では、恋愛交際相手に求めることを複数回答してもらった結果を、多いものから順にランキング形式で示してあります(Q31)。これを見ると、「一緒にいるときの安心感」(915名 87.3%) や「気づかいはできる」(681名 65.0%) 「自分の心配ごとや悩みを聞いてくれる」(653名 62.3%) といったように、円滑にコミュニケーションができて、心理的な安心感が得られることを重視しているのがわかります。それと比べると、「容姿」(583名 55.6%) は半数をちょっと超える程度ですし、「経済力」(208名 19.8%) 「学歴」(160名 15.3%) などは2割にも達していません。

Q35 あなたには、家族に関する次の a) ~ d) のことがどの程度あてはまりますか。それぞれについて1つずつ選んでください。/ b) 今の家族に生まれてよかったと思う (S A)			
		回答数	%
全体		1056	100.0
1	あてはまる	699	66.2
2	ややあてはまる	249	23.6
3	あまりあてはまらない	79	7.5
4	あてはまらない	29	2.7
c) 親からの期待が重荷だ (S A)			
		回答数	%
全体		1055	100.0
1	あてはまる	109	10.3
2	ややあてはまる	249	23.6
3	あまりあてはまらない	391	37.1
4	あてはまらない	306	29.0
d) 自分も親のような家族を持ちたい (S A)			
		回答数	%
全体		1056	100.0
1	あてはまる	328	31.1
2	ややあてはまる	324	30.7
3	あまりあてはまらない	236	22.3
4	あてはまらない	168	15.9

表 11. 家族関係に関する意識 (抜粋)

引き続き、家族関係に関する意識も見ていきましょう。表 11 を見ると、いくつかの象徴的な意識がうかがえます。「今の家族に生まれてよかったと思う」(Q35(b)) という項目に、「あてはまる」「ややあてはまる」答えた人は 948 名で 89.8% とかなりの割合に達し、総じて現状の家族関係に対する肯定的な傾向がうかがえます。

ですが一方では、「親からの期待が重荷だ」(Q35(c)) という項目には、同様にあわせて 358 名 33.9% と少なくない人が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えており、親からの

プレッシャーを受け止めている様子もうかがえます。また「自分も親のような家族を持ちたい」(Q35(d))という項目には、同様にあわせて652名61.8%が「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、過半数を超えはしたものの、先の「今の家族に生まれてよかったと思う」という項目の肯定率の高さと比べると、現状に肯定的な一方で、親と同じような家族関係を持つことができるとは考えていない大学生も、一定数存在しているといえそうです。

7. 自己意識に関する実態

Q36 あなたは今の自分が好きですか。それとも嫌いですか。(S A)			
		回答数	%
全体		1052	100.0
1	大好き	92	8.7
2	おおむね好き	581	55.2
3	やや嫌い	312	29.7
4	大嫌い	67	6.4

表 12. 自己肯定感

Q39 あなたにとって「自分らしさ」とはどのようなものですか。以下のa)～g)について、1つずつ選んでください。/ a) 自分には自分らしさというものがあると思う(S A)			
		回答数	%
全体		1053	100.0
1	そう思う	314	29.8
2	ややそう思う	404	38.4
3	あまりそう思わない	279	26.5
4	そう思わない	56	5.3
b) どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ(S A)			
		回答数	%
全体		1054	100.0
1	そう思う	162	15.4
2	ややそう思う	413	39.2
3	あまりそう思わない	403	38.2
4	そう思わない	76	7.2
e) 自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ(S A)			
		回答数	%
全体		1054	100.0
1	そう思う	123	11.7
2	ややそう思う	477	45.3
3	あまりそう思わない	353	33.5
4	そう思わない	101	9.6

表 13. 「自分らしさ」に関する意識(抜粋)

続けて、自己意識に関する実態を見ていきましょう。表 12 を見ると、今の自分について「大好き」「おおむね好き」と答えた人は、673 名で 63.9%に達し、過半数を超えていることがわかります (Q36)。

ですが、「自分らしさ」をめぐる意識については、複雑な実態も見えてきます。表 13 にあるように、「自分には自分らしさというものがあると思う」(Q39(a)) という項目に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人は、718 名 69.2%に達していますが、「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ」(Q39(b)) という項目について、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人は、575 名 54.6%とそれよりも少なく、簡単には、それを貫き通せない様子が見えられます。

これについては、「自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ」(Q39(e)) という項目に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人があわせて 600 名 57.0%と 6 割近くに達していたり、あるいは、先のメディア利用の実態で SNS のアカウントに鍵をかけたり、複数使い分けたりすること、さらに友人関係の実態で、「周囲の人たちから「イタいやつ」と思われたいようにしている」ことの割合が高かったことと併せて考えると、やはりいわゆる「空気を読む」ふるまいによって、周囲との調整を図りながら、自分らしさを保持している様子が見えられます。なお表には示していませんが、「意識して自分を使い分けしている」という項目 (Q38(d)) に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた人があわせて 676 名 64.2%と 6 割を超えていたのも、これと関連した結果と言えるでしょう。

8. 社会意識に関する実態

最後に、社会意識に関する実態を見ていきましょう。

Q42 以下のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。a) ~ j) のそれぞれについて1つずつ選んでください。/ b) 社会や他人のことより、まず自分の生活を大事にしたい (SA)		回答数	%
全体		1052	100.0
1	あてはまる	337	32.0
2	ややあてはまる	566	53.8
3	あまりあてはまらない	137	13.0
4	あてはまらない	12	1.1
c) 将来、仕事よりも趣味や家庭を大事にしたい (SA)			
全体		1050	100.0
1	あてはまる	312	29.7
2	ややあてはまる	502	47.8
3	あまりあてはまらない	212	20.2
4	あてはまらない	24	2.3

表 14. 社会意識に関する実態 (私生活主義) (抜粋)

表に示していませんが、「現在の生活に満足している」(Q42(a))という項目に、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、あわせて750名で71.2%にも達しており、高い生活満足度がうかがえました。その背景としては、身近な範囲での安定感や満足感が存在していそうです。先に見た、「今の家族に生まれてよかったと思う」という項目への高い肯定率もそうでしたし、同様に、「社会や他人のことより、まず自分の生活を大事にしたい」(Q42(b))という項目にも、あわせて903名85.8%が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えているように、いわゆる私生活主義といえるような傾向がうかがえます。これは現状だけでなく、この先も同様であり、「将来、仕事よりも趣味や家庭を大事にしたい」(Q42(c))という項目に、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人も、あわせて814名で77.5%と高い割合に達していました。

Q42 以下のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。 a) ~ j) のそれぞれについて1つずつ選んでください。 / g) ふだんから政治に対して関心がある (SA)			
		回答数	%
	全体	1053	100.0
1	あてはまる	94	8.9
2	ややあてはまる	272	25.8
3	あまりあてはまらない	410	38.9
4	あてはまらない	277	26.3
h) 私のまわりには政治に関心を持っている人はいない (SA)			
		回答数	%
	全体	1052	100.0
1	あてはまる	145	13.8
2	ややあてはまる	441	41.9
3	あまりあてはまらない	345	32.8
4	あてはまらない	121	11.5
i) 日本の将来に強い関心がある (SA)			
		回答数	%
	全体	1051	100.0
1	あてはまる	110	10.5
2	ややあてはまる	336	32.0
3	あまりあてはまらない	456	43.4
4	あてはまらない	149	14.2

表 15. 社会意識に関する実態 (政治や将来についての関心) (抜粋)

これと関連して、政治に対する関心はあまり高くなく、また周囲の人も同様であることがうかがえます。「ふだんから政治に関心がある」(Q42(g))という項目に、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、366名34.7%で三分の一程度に過ぎなかったのに対し、

「私のまわりには政治に関心を持っている人はいない」(Q42(h))という項目に、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、586名 55.7%で過半数を超えていました。

これと関連して、「日本の将来に強い関心がある」(Q42(i))という項目についても、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人は、446名 42.5%と4割程度にとどまりました。

9. おわりに

ここでは単純集計結果を中心に、コンテンツ文化、メディア利用、友人関係、恋愛・家族関係、自己意識、社会意識、あるいは新型コロナウイルス感染症拡大などに対する、大学生の意識と行動の実態について見てきました。

古くから、「若者文化は社会のリトマス試験紙である」という言い回しがあります。昨今の日本社会は、新型コロナウイルス感染症拡大に苦しみつつありますが、そのこととも関連して、あるいは別な要因によって、変わりつつある社会の様相が、大学生の意識や行動からうかがえたように思います。

我々の研究会では、引き続きこうした変わりゆく社会や、そこを生きていく若者たちの意識や行動に焦点を当てた研究を進めながら、その成果を少しでも社会のために役立てていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

最後に、ご協力いただいた皆様が、今後ともご健康で、楽しい日々を過ごされますことを、お祈りいたします。ありがとうございました。

以上。

※本調査は主に以下を中心とする本研究会の調査参加メンバーによって行われました。

研究代表者：浅野智彦（東京学芸大学）

事務局：辻泉（中央大学）、羽瀧一代（弘前大学）、岩田考（桃山学院大学）

事務局補佐：木村絵里子（日本女子大学）、妹尾麻美（同志社大学）

サブカルチャー班班長：木島由晶（桃山学院大学）

メディア文化班班長：二方龍紀（清泉女学院短期大学）

友人関係班班長：小川豊武（昭和女子大学）

恋愛・家族班班長：久保田裕之（日本大学）

自己意識班班長：牧野智和（大妻女子大学）

社会意識班班長：寺地幹人（茨城大学）